

令和7年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

東京農業大学情報教育推進委員会

(責任者名) 畑中 勝守

(役職名) 情報教育推進委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--|------------|----------|------------|--------------|------------|--------------|---------------|-------|-------|-------|------|------|---------------|--|--|--|--|--|---------|-------|-------|-------|------|------|---------|-------|-------|-------|------|------|
| 学内からの視点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プログラムの履修・修得状況 | <p>令和7年度は722人の履修者があり、プログラム修了者は299人であった。プログラム開始からの累積で、762人の修了者を輩出した。1年次生の必修科目「情報基礎」の授業内で、プログラムの周知活動を実施したことにより履修者は前年度から倍増した。これは令和8年度も引き続き実施し、より多くの学生が数理・データサイエンス・AI教育の重要性を理解し、積極的な履修を促すことを目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修成果 | <p>本プログラムのコア科目「データサイエンス基礎(一)」、「データサイエンス基礎(二)」の履修者を対象とするアンケートを実施し、履修者の理解度、教務関心、学習意欲について調査している。結果は東京農業大学情報教育推進委員会に報告し、本教育プログラムの評価および翌年度のプログラム改善に利用している。以下のアンケートではいずれも7割以上の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別講義 データサイエンス基礎の授業には、意欲と関心を持っていたか」 ・「学習したことは今後の学部・学科の勉強に役立つと思うか」 ・「データサイエンス、AIに対する興味・関心が高まったか」 <p>従って、本教育プログラムの趣旨、内容についての理解度は高いと考えられる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | <p>本プログラムのコア科目である「データサイエンス基礎(一)」、「データサイエンス基礎(二)」、「情報基礎(一)」、「情報基礎(二)」の履修者に対し、理解度についてのアンケート調査を実施し、以下の結果を得た。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほぼ理解できた</th> <th>70%ほど理解できた</th> <th>半分は理解できた</th> <th>30%ほど理解できた</th> <th>ほとんど理解できなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データサイエンス基礎(一)</td> <td>10.6%</td> <td>48.9%</td> <td>34.2%</td> <td>3.7%</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>データサイエンス基礎(二)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報基礎(一)</td> <td>36.6%</td> <td>37.9%</td> <td>20.0%</td> <td>3.4%</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>情報基礎(二)</td> <td>30.1%</td> <td>42.8%</td> <td>20.9%</td> <td>3.0%</td> <td>3.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>いずれの科目も受講者の60%~80%が「ほぼ理解できた」または「70%ほど理解できた」と回答している。従って、本プログラムの中核科目であるこれら3科目の授業内容の理解度は高いと考える。 なお、統計関連科目については、選択科目であることから受講者が分散して少数であることから、現時点でアンケートデータを補足できていない。</p> | | ほぼ理解できた | 70%ほど理解できた | 半分は理解できた | 30%ほど理解できた | ほとんど理解できなかった | データサイエンス基礎(一) | 10.6% | 48.9% | 34.2% | 3.7% | 2.8% | データサイエンス基礎(二) | | | | | | 情報基礎(一) | 36.6% | 37.9% | 20.0% | 3.4% | 2.1% | 情報基礎(二) | 30.1% | 42.8% | 20.9% | 3.0% | 3.2% |
| | ほぼ理解できた | 70%ほど理解できた | 半分は理解できた | 30%ほど理解できた | ほとんど理解できなかった | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| データサイエンス基礎(一) | 10.6% | 48.9% | 34.2% | 3.7% | 2.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| データサイエンス基礎(二) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報基礎(一) | 36.6% | 37.9% | 20.0% | 3.4% | 2.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報基礎(二) | 30.1% | 42.8% | 20.9% | 3.0% | 3.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | <p>情報教育センターにおいて本教育プログラムのコア科目である「データサイエンス基礎(一)」、「データサイエンス基礎(二)」の履修者を対象として実施した授業アンケートでは、後輩学生や他の未履修の学生への本教育プログラムの推奨について、以下の回答が得られた。「ぜひ薦めたい」「薦めたい」と回答したものは全体の62%を超えており、本教育プログラムの推奨度は高いと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぜひ薦めたい(14.7%) 薦めたい(47.9%) どちらでもない(31.0%) あまり薦めたくない(4.8%) 薦めたくない(1.6%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | <p>兼務教員会議、東京農業大学情報教育推進委員会を定期的実施し、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの意見も取り入れ見直し等を検討し、学生の履修を推進している。より多くの学生に数理・データサイエンス・AI教育の重要性を理解させ、「データサイエンス基礎(一)・(二)」(2年次)の積極的な履修を促すことを目指し、単位修得を「データサイエンス基礎」履修の条件としている1年次必修科目「情報基礎(一)・(二)」の授業内で、教育プログラムの周知活動を実施する。その一環として「情報基礎(一)・(二)」で使用する本学情報教育センター発行のテキストにAIに関するコラムを掲載している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学外からの視点 | |
| <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> | <p>本教育プログラムは令和5年度から開始し、プログラム開始から3年目は215名の修了者が卒業予定である。引き続き本学キャリアセンターと連携し、進路先や採用状況を把握することができる体制を設ける。</p> |
| <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p> | <p>本プログラムの一部を担当した株式会社 富士通ラーニングメディアよりいただいた以下の意見を教育プログラムに反映した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業におけるテーマ(就農支援、負荷軽減、ノウハウ移譲)をもとにした課題解決型データ活用ワークショップ ・DX推進スキル標準でも必要スキルとして挙げられる「デザイン」スキルの向上を目的としたワーク設計(ユーザー探求やバリュープロポジション設計等) ・今後学生が、ユーザーのニーズをもとにした農業課題解決に興味を示すことを期待した講座設計 |
| <p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p> | <p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンド、本学学生の専門分野である農業など、社会での実例をもとにデータサイエンス、AI等がどのように活用されているかを授業内で取り上げている。また授業内でワークショップを開催し具体的な課題解決を行う実習を行うことにより意欲・好奇心を促す講義内容としている。</p> |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>兼務教員会議、東京農業大学情報教育推進委員会を定期的に実施し、学生からのアンケート結果を分析し、各授業科目および「データサイエンス基礎」科目の各授業コマの講義内容・実施方法について見直しを検討している。また、オンデマンド教材の内容の見直しを進めており、社会の変化や技術の発展を踏まえた内容に修正する予定である。</p> |